

製品名: リン酸化 YAP1 (S127) (14M14) ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe06050

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	YAP1
別名	65 kDa Yes associated protein; YAP; YAp 1; YAP2; YAP 65;YKI; Yorkie homolog;
遺伝子 ID	10413.0
SwissProt ID	P46937
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

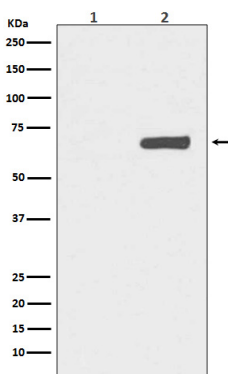
背景

YAP (Yes 関連タンパク質、YAP65) は、Yes の SH3 ドメインと会合する能力に基づいて特定されました。転写制御因子は、コアクチベーターおよびコリプレッサーの両方として機能することができ、Hippo シグナル伝達経路における重要な下流制御ターゲットであり、増殖を抑制しアポトーシスを促進することで臓器のサイズ制御と腫瘍抑制に重要な役割を果たしています。転写制御因子は、コアクチベーターおよびコリプレッサーの両方として機能することができ、Hippo シグナル伝達経路における重要な下流制御ターゲットであり、増殖を抑制しアポトーシスを促進することで臓器のサイズ制御と腫瘍抑制に重要な役割を果たしています (PubMed:17974916、PubMed:18280240、PubMed:18579750、PubMed:21364637、PubMed:30447097)。この経路の中核はキナーゼカスケードで構成され、STK3/MST2 および STK4/MST1 は、その調節タンパク質 SAV1 と複合体を形成し、LATS1/2 をリン酸化・活性化します。LATS1/2 は、その調節タンパク質 MOB1 と複合体を形成し、YAP1 オンコタンパク質および WWTR1/TAZ をリン酸化・不活性化します (PubMed:18158288)。皮質アクチンミオシンネットワーク形成を制御することで、組織の張力と 3D 組織形状の形成に重要な役割を果たします。F-アクチン重合を抑制する Rho GTPase 活性化タンパク質である ARHGAP18 を介して作用します (PubMed:25778702)。細胞接触に対する細胞増殖の制御に重要な役割を果たします。LATS1/2 による YAP1 のリン酸化は、その核への移行を阻害し、細胞増殖、細胞死、および細胞移動に重要な細胞遺伝子の制御に関与する (PubMed:18158288)。遺伝子発現、細胞増殖、足場非依存性増殖、および上皮間葉転換 (EMT) 誘導を促進するには、TEAD 転写因子の存在が必要である (PubMed:18579750)。TEAD4 標的遺伝子である AURKA および PLK1 の転写コリプレッサーとして作用することにより、絨毛形成を抑制する (PubMed:25849865)。WWTR1 と連携して、TGFB1 依存性 SMAD2 および SMAD3 の核内蓄積の制御に関与する (類似性による)。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



(1) HeLa 細胞溶解物、(2) FBS+カリキュリン A で処理した HeLa 細胞溶解物における Phospho-YAP1 (S127)発現のウェスタンブロット解析。